

NASVA療護施設における新看護プログラム

野津 真生

独立行政法人 自動車事故対策機構審議役

【目的】NASVAでは、全国7カ所の療護施設において自動車事故による重度後遺障害者専門の治療と看護を行っている。入院患者の関節の拘縮、筋の萎縮改善や食物の経口摂取、意識的な排泄行為等の再取得により、介護者が安心・安楽な介護を実践出来ること等を目的に紙屋克子筑波大学名誉教授のご指導の下、平成22年から3年間に亘り新看護プログラムを実施してきた。

【方法】4週間を1単位として患者の関節拘縮、筋萎縮の状況、栄養状態等を踏まえ、温浴刺激療法、用手微振動、ムーブメントプログラムなどを施した。

【成績】各種データ計測の結果、関節拘縮、筋萎縮の改善や表情の顕在化、座位姿勢の安定等様々な改善が見られた患者が出ている一方、症状変化がほとんど見られない患者も多くいる。

【結論】新看護プログラムの実施により、患者が潜在的に有する身体の開放能力や改善能力が引き出された結果、改善に繋がったものと推定する。NASVA療護施設としては、今後も新看護プログラムを実践し、質の高い治療・看護を実施して行くこととしている。